

日刊建設工業新聞（2022年3月23日付6面掲載）

【オリコンサルらの実証実験スタート 南紀白浜空港の課題 ローカル5Gで解決】

南紀白浜空港の課題 ローカル5Gで解決

オリコンサルらの
実証実験スタート

オリエンタルコンサルタンツら4社は、南紀白浜空港（和歌山県白浜町）でローカル5G（第5世代通信規格）を活用した実証実験を開始した。複合現実（MR）を活用したスマートメンテナンスサービスや、ロボットによる来訪者の案内などを行う。先進技術を活用することで、空港が抱える労働力不足などの課題をカバーし、新たなサービスにつなげていく。

実証実験を行うのはオリエンタルコンサルタンツ、南紀白浜エアポート（和歌山県白浜町、岡田信一郎社長）、NEC、THKの4社。日本マイクロソフト、凸版印刷の2社が協力する。南紀白浜空港の空港ターミナル内とエプロン、滑走路周りの場周道路を対象に高速大容量・低遅延なローカル5Gネットワーク環境を構築する。実証期間は31日まで。

MRを活用したスマートメンテナンスの実証では、マイクロソフトのMR用ヘッドセット「ホロレンズ2」を活用。ホロレンズ2を着用すると、高さ制限を超えた樹木やクレーンなどの建機を瞬時に見つけられる。制限を超えた部分は赤い四角で囲まれ、赤い三角形の印が上空に現れる。滑走路の路面点検では現実空間に前回の点検記録を重ね合わ

せて表示でき、点検作業の負担を大幅に軽減できる。

ロボットによる来訪者案内では2台のロボットが協調連携しながら分担して来訪者を目的の地まで案内する。それぞれのロボットが異なるエリアを担当。案内の範囲がエリアをまたがる場合は、途中でもう1台に引き継いで案内する。案内終了後は移動型デジタルサイネージとして宣伝広告に切り替わる。ロボットに搭載したカメラからは映像を取得でき、オペレーターによるロボットの遠隔操作も可能だ。